○来月の人権に関する月間・週間・記念日「人権週間 12/4 ～ 12/10」「人権デー 12/10」「世界エイズデー 12/1)」「障害者週間 12/3~12/9」「北朝鮮人権侵害問題啓発週間（12/10 ～ 12/16）」

十島村教育委員会だより　令和３年１１月号

心わかかーカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

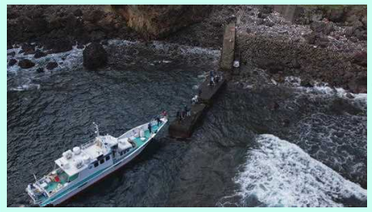
十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

写真提供：宝島小・中学校「一日遠足」

11月・・・臥蛇島離島50年式典

十島村教育長　有　村　孝　一

去る10月16日土曜日。船3艘に分乗した役場職員、村議会議員ら一行30名は、臥蛇島を目指しました。臥蛇島で行われる「離島50年式典」に出席のためです。式典は、当初昨年7月に計画されていましたが、新型コロナウィルス感染症の影響で延期されていました。



村長以下役場職員のほとんどが、「フェリーとしま2」を平島で降り、そこから「ななしま２」に乗り換え、約40分で目的地の臥蛇島に到着しました。

臥蛇島の船着き場は、50年という年月の経過を物語るかのように、途中で真っ二つに割れていました。わずか3mほどですが、小型のボートに2人ずつかわるがわるに乗って移動します。ボートは、職員4人が腰まで海につかりながら動かします。全員が渡り終わり島に上陸すると、目の前には断崖が立ちはだかります。

ヘルメットを着用しその急峻な坂を少しずつ登ります。無断立ち入り禁止の看板を通り過ぎると、「落石に注意」の声がかかります。途中からはロープが張られていたので、それに捕まりながらゆっくり進みます。下を見ると目がくらみそうになります。約15分程で頂上の平らな居住地跡につきました。そこはヤギが常に草を食べているせいか、広々としてなだらかな見事なまでに整地された丘陵地になっていました。

臥蛇島には、戦前のカツオ漁の拠点であった最盛期には40世帯、188人以上の人々が住んでいました。高度成長の波による若者の流出などにより、厳しい自然条件の下での地域の維持は極めて困難を極め、はしけによる危険な通船作業の負担などから、残った4世帯16人が島を離れました。昭和45年7月28日のことです。そして無人島となりました。

10時20分。50年式典が始まりました。全員で黙とうをした後、村長は「離島にとって過疎化は、無人島になる危険性を含む。この教訓を生かすことが私たちに課せられた使命だ。」と式辞で述べました。続いて村議会議長、その後臥蛇会の代表が、「島に来て、当時の記憶がよみがえる。みんなで助け合う暮らしは今でも忘れない」とあいさつしました。慰霊碑の除幕の後、記念撮影をして式典は終了しました。

式典の後、学校跡地を訪ねました。そこは、跡形もなく木々でおおわれていました。50年以上前に、ここは中之島小中学校臥蛇島分校として確かに存在していました。私たちの大先輩の先生方が教え、子どもたちが目を輝かせて学んでいる、そんな姿を想像しながら引き返しました。

その昔、接岸港も無い頃に、はしけによる通船作業は困難であったことを、身をもって感じました。朽ち果てた索道小屋等を見るとき、ここでの生活がいかに困難であったかは、容易に想像することができました。

島を離れるときに、両親の写真をもって参加した臥蛇会の一人が、遊漁船の上からラッパを吹き始めました。何回も何回も吹きました。やがて、ラッパの音も聞こえなくなり、私たち一行は臥蛇島を後にしました。

中学生の「税についての作文」

最優秀賞　　小宝島中学校３年　　安本　風香

「私　た　ち　を　助　け　る　税」

「税金って、何だろう。」

私は、小学生のときに、「税金」という言葉を知り、消費税について知った。そのときは、消費税について知っただけで満足した。

中学生になり、山海留学で鹿児島県の十島村にある小宝島に来た。この十島村でも、様々なことに税金が使われている。例えば、鹿児島県本土から十島村の各島をつなぐ「フェリーとしま２」だ。このフェリーは、十島村の島民にとって欠かせないものである。なぜなら、このフェリーには、人だけではなく、食料や生活に必要なものなどが運ばれてくる。「フェリーとしま２」が運航しなければ、食料などが届かなくなってしまい、私たちの生活が困難になってしまう。他にも、税金の使われているところがある。私たちの身近なところで言えば、「教育費」だ。これは、私たち生徒が整った環境のもとで授業が受けられるように、学校の施設の整備や学習環境の充実のために使われている。

国や、私たちの住んでいる町を良くするために色々なところでも、税金は使われている。橋や港湾、空港などの建設整備に使われている「土木費」や、暮らしに困っている人達、高齢者、身体の不自由な人たちを援助するための「民生費」、健康を守るために、医療施設などの充実や病気の予防のために使われている「衛生費」など、税金は私たちの暮らしを助けている。

もし、税金がなかった場合、私たちの生活はとても大変なことになると考える。例えば、道路が整備されず、危険な道路が増えてしまったり、病院で支払う料金も高くなり、負担が増えてしまったりすることなどがある。一番身近なところであれば、私たちが持っている教科書や、学校自体もなくなってしまう恐れがある。税金がなければ、学校を建てたり、教科書を買ったりと全て自分たちでお金を支払わないといけなくなってしまう。また、警察署にあるパトカーや、消防署にある消防車、救急車などの整備ができなくなってしまい、火事が起きたときや、急病の人がいたとき、犯罪が起こったときに、すぐに駆け付けることができなくなってしまう。このように、税金がなくなってしまうと、私たちの生活は、困難になってしまうだろう。

私は、最初、税金がどんなことに使われているのか知らなかった。税金のおかげで、私たちは学校へ行くことができ、町の中でも、安心・安全に暮らしていける。

今回、もし税金がなければということを考えられたおかげで、税金のない暮らしが、どれだけ大変なのかということをイメージすることができた。もっと税金について知り、その仕組みなどの理解を深めていきたい。これから先の未来の安心・安全な国・町づくりのためにも、税金について詳しく知り、「みんなを助ける税」について考えていきたい。

本村の中学生は，２年連続で最優秀賞を受賞しました。

【新聞に投稿】

令和3年９月３日南日本新聞「若い目」掲載
中之島小学校１年　おばらざわりょうま

はなをつままない

ぼくは、はなをつままないと、かおを水につけられません。はなに水が入ってきて、「うえーっ」となるので、くるしくて、とてもいやです。れんしゅうすることにしました。バケツに水を入れて、かおをつけるじゅんびをします。いきをすいます。たっくさんすいます。「バチャーン」。口からいきをはいてブクブクします。くるしくなったら、かおを出して「ばあっ」ってします。

かおをあげるとタオルでふきます。いい気分です。まいにちれんしゅうしていくと、どんどんうまくなってきました。水の中でも、ながくできるようになってきました。

「つままないで、やる。ぼくは、もうできる。」はなをつままないで、思いっきりいきをすってから、かおをつけました。

「ぶくぶくぶくぶく」はなに水がはいってきません。いたくありません。

「やったあ」りょう手をあげてジャンプしました。

もう、はなをつまなくても、水にかおをつけることができます。

令和３年１０月１５日　南日本新聞「若い目」掲載
宝島小学校５年　田中　光結

畜産を学ぶ

総合的な学習の時間に「畜産学習」がありました。畜産学習とは十島村の畜産業について学び、宝島の牛をお世話したり、生産農家の仕事の内容を教えてもらったりする学習です。宝島では島民の方々が畜産をしています。今回、牧場や牛舎の見学をさせてもらったのは、同じ学級の友達のお父さんでした。牧場にはたくさんの牛がいました。それぞれの生産者が育てている牛は、鼻の輪の色や耳についているタグで見分けているそうです。一番おどろいたのは、生産者の声かけだけで牛が集まってきたことです。母牛がどのように子牛を産み、どのように育てているのか。その後、市場には、どのようにして出すのかなど知りたいことをたくさん教えてもらいました。私はこの活動を生かして、職業としての畜産業というテーマを持ち、これからもっと調べていきたいです。

中之島から「子供のうた」

「ふうせん」
さわると、
もこもこするよ。
こすると、
きゅきゅと音。
たたいたときふうせんの音がすき。
もっとふくらまして、
もっと　音をならしたい。
中之島小学校一年　はまぞえ　てん

「御岳山の生活」

朝になったら
元気に　おはよう
昼になると　雲がかかり
お昼寝　スヤスヤ
私は元気に　遊んでる
夜になると　真っ暗で
静かになると　スウスウ
私も静かに　おやすみなさい
そして　再び　朝が来る
中之島小学校五年　久木山　陽

十　島　村　で　学　ぶ

【悪石島で学ぶ】「生涯忘れられない経験」

悪石島中学校３年　三田　凌也

僕は、今年の運動会で、応援団長を務めました。

ある朝突然、運動会の先生に、応援団長をやらないかと聞かれました。最初はとても驚きましたが、自分を成長させるチャンスだと前向きにとらえ、引き受けることにしました。早速応援団でどんな演舞をするかを先生方と一緒に考え、練習を開始しました。いざ応援団練習が始まると、５人という少人数集団にもかかわらず、上手くまとめることができませんでした。次第に楽しいムードも消えてしまいました。しかし、そんな時に先生から「やるからには楽しく。」と言われ、気分を取り直しました。そして放課後だけではなく、昼休みや休日も練習し、本番では緊張もありましたが、これまで練習してきた中で最高のパフォーマンスを披露することができました。

今回の応援団長の経験を通して、人をまとめる大変さ、そしてその楽しさを学ぶことができました。人にはそれぞれ考えや理想があります。応援団長である僕がそれらをまとめる大変さはすさまじいものでした。しかし、円陣を組んで掛け声をかけ、校庭に立ったときの高揚感、そして演技を終えたときの達成感は今まで感じたことのないものでした。昨年は応援団長をすることを自分には務まらないと思い、断った僕ですが、大変そうなものでも本気で取り組んだり，周りと同じ目標に向かって協力しあうことは楽しいと知りました。今回の経験が自分の人生でいかに有意義なものだったかは筆舌に尽くしがたいです。そんな経験を僕は生涯忘れません。

【口之島小・中学校からのメッセージ】

教諭　中村　佳世

口之島に来て，１年半が経ちました。昨年度，約３０年振りの十島村の新規採用として，人生で２度目の教員生活を口之島でスタートしました。私自身，鹿児島に引っ越して来て間もなく，まだ鹿児島県のこと自体よく分からない中での初めての離島勤務。「口之島ってどこだろう……。」と，不安な気持ちで地図を検索したことが，今ではよい思い出となっています。

以前勤務をしていた静岡県の小学校では，中規模校と全校単学級の小規模校を経験してきました。十島村は小学校が複式学級，そして小中併設校ということで，また新しい貴重な経験を積み重ねることができています。以前「離島では，より子どもたち一人一人に寄り添った教育ができるよ。」と教えていただき，いつか離島の学校にも勤務してみたいと憧れを抱いていましたが，早くも離島教育に携わるという夢が実現できていることに感謝しています。

口之島の子どもたちは，みんな素直で優しく，毎日元気をくれます。また，島民の方々は，学校教育だけでなく，日常生活でもいつも温かく見守ってくださいます。この恵まれた環境の中で，口之島ライフを思い切り楽しもうと思っています。コバルトブルーに輝くサンゴ礁のプール，初めて見るようなカラフルな魚が釣れる魚釣り，肉眼で見える天の川に大感動の天然のプラネタリウム，子どもたちと一緒に音楽を創る金管バンド。ここでしか体験することができないことにどんどんチャレンジしていきたいです。

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

今年度の５・６年生集合学習で，他の島の子どもたちや先生方と交流することができました。授業や学校生活についての情報交換ができ，とてもよい経験となりました。今後も，TV会議や研修会等でお話できることを楽しみにしています。